

ごあいさつ

文筆活動を営む者にとって活字化された作品は、いわば「墓標」のようなものである。「生きた証」ともいえるだろう。この小冊子に収録した「断片」の数々は、取材対象との相互主体的な交渉の記録であり、その意味で私の「経験」の結晶ともいえる。

新聞記者時代の私の頭の中には、常に「地域主権」という思想が基調にあった。「国際社会の主役は地域社会であるはずだ」という思いが強かった。その思いが「地域づくりは人づくりである」という理念に発展していった。「信濃義塾」の開設は、「明日の地域社会を担う若者を育てたい」という理想を現実化するための、ささやかな挑戦である。

私は「地域」という言葉の意味を三つの基層で考えている。「地方」「大地」「地球」の三つの「地」が重層構造をなしている「生きる場」が、私のいう「地域」である。集権的な「中央」に対する分権的な「地方」で、また、東京に比べ食文化や住環境の良い「地方」で、自然と調和して「大地」に生きる。それは、国家や民族や宗教の差異を超えて「地球」に生きる自覚を持った人々の集う場でもある。

そんな「地域」に生きる人々の群像を、できる限り活写したいという思いが執筆活動の原動力であった。今は、その私の思いがうまく伝わってくれることを願うばかりである。

1997（平成9）年3月30日

藤森 弘